

SSHCONニュース

第88号 発行日：令和6年11月14日

(一社) 日本労働安全衛生コンサルタント会埼玉支部

・Tel 048-649-8617 ・Fax 048-649-8618

・〒 330-0804 さいたま市大宮区堀の内町1-116-1 安藤ビル3F

・支部 URL <http://jashcon-saitama.com/>



巷では、あちらこちらでおせち料理の広告を見かけるようになり、ああもう年末が近いのだなあ、と今年に起きた様々なニュースを振り返る季節になりました。内閣府のHPによれば、令和6年11月14日現在、令和6年1月1日に発生した能登半島地震は特定非常災害に指定され、激甚災害は前線や台風による風水害が4件指定されています。災害の被害に遭われた方々は、現在も復旧に向けて大変な思いをされていることと思いますが、安心しておせち料理を食べられるお正月を迎えられることを願います。

上の写真は川越公園のボート池です。来訪者は思い思いに秋の午後を楽しんでいました。

寒暖の差が激しい時季になりますので、体調管理には十分お気をつけください。会員皆様のもすますのご活躍をご祈念いたします。

(事務局広報部)

ニュースの主な内容

1. 研修部だより	2
2. 事務局だより	2
3. 会員寄稿	7
4. 事業部会への新入会員のお知らせ	9
5. 最近の報道より	10

1. 研修部だより

第 133 回 埼玉支部研修会の開催案内

埼玉支部研修会を下記のとおり開催いたします。

(会場参加、Web 配信ともに、参加者の募集は締切ました)

記

1. 日 時 : 令和 6 年 11 月 29 日 (金曜日) 13:30～16:35

2. 場所 (方法): 市民会館おおみや

・「市民会館おおみや」会場 (大宮門街ビル 6 階 集会室 4)

3. 研修の内容 :

冒頭の 1～2 分は支部長挨拶

(ア) 13:30～15:30

●講師 : 粉川 昇市 氏 ・呼吸用保護具概説

(イ) 15:35～16:35

●講師 : 重松製作所 マーケティング部企画係長 大野 翼 氏

・実技(マスク装着、漏れ率測定、フィットテスト)

4. その他連絡事項

生涯学習制度に参加の方は 3 C P D をご加算ください。

(真崎研修部長)

2. 事務局だより

(1) 令和 6 年度臨時第 1 回幹事会(Web)が令和 6 年 9 月 7 日(土)にリモート会議方式で開催されました(下記報告事項は、9 月 7 日時点の情報に基づいて記載しています)。

I 報告事項

1. 支部長報告

6 月 12 日に開催された支部総会は無事終了し、議事録整理済み。出席者は 44 名。

本部の総会が 6 月 24 日に開催されました。内容については議事録の確認中です。

会長功績賞を石田さんが受賞されました。

梅村さんの通夜が 6 月 23 日に岩槻ホールで執り行われ、中澤支部長が参列しました。

埼玉労働局、労働基準監督署、労働基準協会、産業保健総合支援センターなどに支部の挨拶廻りを実施してきました。

支部長会議が8月30日にWeb会議で開催されました。埼玉支部からは小北事務局長が参加しました。資料は電子データとして支部のHDDに格納することです。SAFEコンソーシアムの支援協力事業者として支部が登録されているので、それに関する話題が多くありました。

10月17日に開催される埼玉産業安全衛生大会に幹事会メンバーは積極的に参加をお願いします。会場運用サポート要員は大越さんを予定。また顧問先で大会に参加していただけたところがあれば、参加をお願いしてください。

2. 事業部会各部からの報告

(1) 企画部（大越企画部長）

2024年版支部リーフレットを2000部作成しました。

本部リーフレットに支部所在地を印刷し、労働基準協会（連合会、所沢除く）に計1620部を発送しました。

支部リーフレットを労働基準協会及び連合会に計950部、基準協会関連で合計2570部を8月19日に発送しました。また本年より労働基準監督署各署100部、計800部を8月1日に送付しました。

(2) 研修部（真崎研修部長）

7月26日に化学物質関係の研修を開催しました。会場12名、Web5名の参加がありました。

次回の支部研修会は11月29日を予定しています。講師は粉川さんの予定です。実習は重松製作所をお願いしています。

12月の外部講師を招いた研修は行わない予定です。

(3) 業務部（森業務部長）

2024年度4月以降の相談件数3件+1件（保留中）。安特3件。

3. 事務局及び各部からの報告

(1) 総務部（椎名総務部長）

会員及び事業部会員の入会・退会

	入会	退会
支部会員	新井紀男さん（建築） 佐古昌彦さん（電気） 権田 孝さん（土木） 野末光弘さん（土木）	中川高志さん（保健衛生）
事業部会員	なし	なし

(2)広報部（青木広報部長）

SSHCONニュース 87号発行（8月）。次回は10月に発行予定。

東京支部事務局から、会員122名に宛ててSSHCONニュースを配信しているという連絡がありました。

(3)会計部（田中会計部長）

支部会計の現状に関して、支部事業部会費納入は人数分を確認しました。（32名分＋休会1名）。この32名は9月現在の人数です。NHK受信料は自動振込みになりました。

Ⅱ 審議事項

1. 本部機関誌10月号(152号)特集「支部における事業拡大の取組」の原稿に関して（中澤支部長）

支部の事業拡大の取組について、これまではインタビュー形式で原稿を作成していましたが、各支部で原稿を作成することになりました。幹事会メンバーにメール送信した原稿案について目を通していただき、意見があればお願いします（来週、本部に原稿を提出します）。

2. 支部に配備しているWi-Fiルーターの扱い（森業務部長）

不明点を調べて、管理などルール化も検討する。

3. 支部研修会の講師の謝金について（中澤支部長）

本部から請求書のフォーマットが送られてきています。

4. 支部HP（ホームページ）の更新について（井上事業部会長）

業務改革WGを立ち上げたい。ホームページのコンテンツに何を掲載するのか、またタイムリーに内容を更新できるようにすることなどについて検討するWGを立ち上げる。

支部のHDに情報が格納されたり、参照したりできるような有効な活用がされていない。これらの問題についても解決できるよう検討したい。

5. 支部当番の変更周知について（森業務部長）

変更が発生した場合のルール化について、方法を検討します。検討結果については、支部当番メンバーに周知します（LINE WORKSだけでなく他のツールを検討します。支部共通フォーマットのカレンダーなど）。

支部当番のカレンダーは支部HPの業務改革WGでの検討課題とします。

Ⅲ 次回幹事会の予定

2024年12月7日(土) 14:00～

(2) 令和6年度南関東ブロック会議報告

令和6年度南関東ブロック会議が10月25日(金)13時から、かながわ労働プラザ4階第3会議室で開催されました。南関東ブロック会議は、千葉支部・東京支部・神奈川支部・埼玉支部で構成され、本部はオブザーバーとして参加され、毎年1回定期的に開催されています。幹事支部は持ち回りで、今回は神奈川支部が担当されました。

会議には、神奈川労働局からのご来賓3名を含め、31名が参加しました。埼玉支部からは、中澤支部長、小北副支部長、堀江副支部長、井上副支部長、大越企画部長の5名が参加しました。

神奈川支部の赤松支部長の挨拶後に本部役員挨拶を三浦会長がされた後、ご来賓の池内労働基準部長のご挨拶をいただきました。引き続き神奈川労働局の安全主任、健康課長様からご講演をいただきました。

本部の田中専務理事から「令和6年度事業実施状況」報告がありました。支部会員は、本部の「専門事項掲載者名簿」に登録することで、SAFE コンソーシアムにおけるSAFE推進アドバイザー団体の会員として、「SAFE コンソーシアムポータルサイト」に掲載されますので、登録を推奨されました。各支部からは「2023年度実績、2024年度状況」についてそれぞれ報告がありました。

休憩後、第14次防に示された「労働安全衛生コンサルタントの活用」の各支部の現状と今後の課題について意見交換が行われました。本年4月から導入された自律的な化学物質管理への対応や、SAFE推進アドバイザー登録、各支部共通の課題として会員の高齢化等の報告があり、対応策として労働局との定期的な連絡会開催や各種団体との連携拡大化等の活動紹介がありました。

会議終了後の情報交換会では他支部会員と親密に話合うことができ、有意義な1日となりました。(中澤支部長)



(3) 埼玉産業安全衛生大会報告

令和6年10月17日(木)、RaiBoC Hall レイボックホール、小ホール(さいたま市民会館おおみや)にて埼玉産業安全衛生大会2024―働く人の安全と健康のつどいーが開催されました。埼玉支部からは主催者側として中澤支部長が、関係協力者として大越企画部長が参加しました。また椎名総務部長が労働衛生講演として「職場における化学物質管理」と題して講演を行いました。

特別講演では、医学博士・航空宇宙医師の嶋田和人氏から「宇宙飛行士の安全・衛生管理」と題して講演がありました。

会場は276名の参加者で盛況のうちに終了しました。

講演会終了後のアンケートでは、労働衛生講演、特別講演ともに「とても良かった」、「良かった」の合計が8割を上回り、参加者の関心の高さが伺えました。

労働衛生講演では、事業者が押さえておくべき事項について、労働衛生コンサルタントとしての経験談を交えながら、体系的かつとても分かりやすい説明がありました。

特別講演では、会場の参加者から宇宙船内の衛生管理上の問題点について質問があった際、トイレの問題や空間内の埃の由来(衣類の繊維、頭皮のフケ)、真菌の繁殖力の話など、大変興味深いお話がありました。充実した内容の講演会でした。(事務局広報部)



3. 会員寄稿「50 歳を過ぎてからの手習い」

埼玉支部 会計部長 田中正司

会員の皆様、お世話になります。

埼玉支部会計を担当している田中と申します。今回、SSHCON ニースに「50 歳を過ぎてからの手習い」と題して投稿させていただきます。

大宮区にある〇〇楽器店に妻がピアノ教室に通うことになり、送迎の都合で遊びにいった時、若い女性の講師に「サックスを吹いてみないかと」勧誘され、以前から興味がありましたが、音楽なんて、楽器を演奏するとは、思っていませんでしたが、時間を持て余していたので体験をしてみようと思い体験しました。体験すると楽器特有の音になり、簡単に音階が吹けて面白いと思いました。

ここでご存知の方もいると思いますがサックスについて簡単に紹介します。

サクソフォンはサックスとも呼ばれ、ベルギーのアドルフ・サックスによって 1840 年代に発明された楽器です。その特徴的なフォルムは、さまざまなデザインでもモチーフとして使用され、楽器といえばこの形と思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。木管楽器の仲間ですが、管体の材質としては主に真鍮が使われており、仕上げに使われるラッカーやシルバーなどによっても音色や吹奏感が異なります。楽器の中では新しく発明された楽器で、音の跳躍、発音がしやすく、大きな音量を活用し、ジャズやロックなど幅広いジャンルで演奏されています。

吹奏楽ではトランペットとならぶ花形楽器で、クラシックの曲では印象的なメロディを受け持つことが多く、ジャズ・ポップスではソロを演奏する機会が多くあります。

サックスの種類としては、ソプラノ、アルト、テナー、バリトンサックスの 4 種類が一般的にあります。（野中貿易（株）より引用）

さて、サックスの教室に通い始めましたが、悪戦苦闘の連続です。音符を歌い、リズムをメトロノームで刻んでの演奏。今まで音楽なんて義務教育しか習って居ない者が上達するわけがありません。毎週、教室に通い毎日家の納屋で練習の日々でしたが、1 曲の楽曲を仕上げるのに約半年かかりました。講師の先生もリズム音痴の初老に教えるのは、苦勞したと思います。継続は、力なりで 3 年、5 年と音楽教室に通い続け、ビックバンドに加入しイベント等に参加し、教室の演奏会なども参加して楽しく練習をすることができました。

音楽教室に 10 年近く教室に通いましたが、講師の退職に伴い教室を退会しましたが、近郊市に JAZZ 演奏家が教室を開いていることを知り、通っています。最初は、アルトサックスを習い始めましたが今は、テナーサックスに持ち替えて JAZZ の曲を楽しんでライブハウスなどに足を運んでいましたが、コロナの流行でセッション等も中止でしたが、最近では盛んに開催しているようです。（近年は、ライブ、セッションに足が遠い、練習不足・・・?）

このような感じで手習いをしています。上達の道は、陰しくカッコ良く演奏できる人は、かなりの努力をしていると感じますが楽しむことを大切にこれからも続けて行きたいと思えます。（会計部長 田中正司）



左側から、ソプラノ、アルト、テナー、バリトン

4. 事業部会員への新入会員のお知らせ

	氏名	山岸 丈人
	種類 登録番号	安全 電気 第 711 号
	事務所名称：山岸労働安全コンサルタント事務所 住所：埼玉県さいたま市南区大谷口 946 - 10 E-mail; yama_take2007@yahoo.co.jp TEL/FAX 090-4609-3196	
資格・その他		
第二種電気主任技術者、1 級電気工事施工管理技士 衛生工学衛生管理者、第一種衛生管理者 各種安全衛生教育講師 （職長・安全衛生責任者教育、低圧電気取扱作業、フルハーネス型墜落制止用器具、他）		
専門事項 特許 著書その他特筆すべき事項		
ハラスメント問題解決支援（民事訴訟、労基署あっせん経験有り）および ハラスメント防止教育、 安全診断、安全衛生活動計画書作成指導、内部監査活動指導、特別教育講師 電気主任技術者業務		
その他備考		
総合電機メーカーの関係会社に在籍していた際は、国内外の発電プラント、製鉄・化学・製紙プラントに出張し、発電機・電動機の絶縁診断試験、電気試験、コイル点検および試運転調整を行っていました。 その後、安全衛生環境担当として現地安全パトロールおよび新規入場者教育を行い、現場経験を活かせる労働安全コンサルタントを目指すため、資格取得に取り組みました。 私が行うコンサルタント業務では、身近な物に置き換えた「伝わりやすい解説」にて対応させていただきます。一例は以下の通り。 熱中症メカニズム ⇒ 機械設備の冷却水流量低下 両罰規定 ⇒ 4 人乗りの乗用車（シートベルト未着用、飲酒運転） 高齢者による災害 ⇒ 身体機能の低下のみでなく、道路の逆走行為や（本質安全の取組み）経験豊富ゆえのメンタルに起因したものを含め作業現場に照らし合わせる		

5. 最近の報道より

■厚生労働省その他の動き（気になる情報の抜粋）

月日	表題	概要
令和6年 1月	一般社団法人 日本半導体製造 装置協会 日めくり事故事例集	安全専門委員会ではクリーンルーム内で起きた事故をイラストを中心に「直接原因」「背景」「再発防止」の3つの参考例を簡潔にまとめた事故事例集を作成している。 https://www.seaj.or.jp/activity/safety/safety/news/other_483.html
4月	化学物質管理強調月間を創設	厚生労働省、中災防が主唱し、環境省の協力のもと、職場における化学物質管理の重要性に関する意識の高揚、化学物質管理活動の定着を図るため創設された。令和7年2月を第1回とし、毎年2月に実施される。 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_39828.html
7月	一般社団法人 住宅生産団体連 合会 令和5年 低層住宅の労働災害 発生状況報告書	会員企業の令和5年の労働災害発生件数は379件（前年比53件増）。脚立・足場・ハシゴからの墜落災害が多数を占めている。年齢層別に見ると、50歳代から60歳以上で増加傾向にあり、全体に占める割合は47%となった。 https://www.judanren.or.jp/activity/proposal-activity/report04/pdf/r05_roudousaigai240719.pdf
7月19日	厚生労働省 新居浜労働基準監督署 クレーンのワイヤロープ等の切 断事故が多発しています！	点検・管理不十分が原因とみられるケースが目立つという。点検時期や交換の判断基準を確認し、使用状況を反映した安全率に基づいてワイヤロープを選定するよう求めている。 https://jsite.mhlw.go.jp/ehime-roudoukyoku/news_topics/niihamakantokusyo20210615_00004.html
7月25日	厚生労働省 令和5年労働安全衛生調査（実 態調査）	https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/r05-46-50.html
7月25日	日本救急医学会 熱中症診療ガイドライン2024	これまでⅢ度(2015)としてきた重症群の中に、さらに注意を要する最重症群があり、この最重症群を「Ⅳ度」として同定し、Active Cooling を含めた集学的治療を早急に開始することを提唱

		https://www.jaam.jp/info/2024/files/20240725_2024.pdf
8 月 30 日	厚生労働省 令和 6 年度「化学物質管理に係る専門家検討会」の中間取りまとめを公表	現行の危険有害性情報の通知制度の運用改善に関すること、危険有害性情報の通知制度における営業秘密の保持に関することについて、検討結果が取りまとめられている。 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_42999.html
9 月 24 日	国土交通省 中小トラック事業者向けテールゲートリフター等導入等支援事業	経営環境が厳しい状況にある中小トラック運送事業者に対し、荷役作業の効率化に資する機器の導入費用の一部を補助する事業を実施。 https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha04_hh_000312.html
9 月 30 日	厚生労働省 石綿対策に係る全国一斉パトロールを実施	労働基準監督署が、各都道府県および特定行政庁の建設リサイクル法担当部局および環境部局と合同で石綿対策に係る全国一斉パトロールを令和 6 年 10 月頃～11 月頃まで実施。 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_43823.html
10 月	厚生労働省 高年齢労働者の労働災害防止対策 令和 7 年度からエイジフレンドリー補助金を拡充	令和 7 年度から、中小企業事業者が専門家を活用して効果的な対策を講じられるようにするため、エイジフレンドリー総合対策コース（補助率：4/5）を新設する。 ※ 専門家によるリスクアセスメントにより事業場の課題を洗い出した上で、優先順位の高い対策を実施するため、他のコースよりも補助率を高く設定 https://www.mhlw.go.jp/wp/yosan/yosan/25syokan/dl/01-07.pdf （114 ページ、上段参照）
10 月	一般社団法人 日本建設業連合会 粉じん障害防止対策推進強化月間のリーフレット	日建連では、毎年 10 月を「トンネル建設工事 粉じん障害防止対策推進強化月間」と定め、会員企業のすべてのトンネル作業所を対象に「なくせ、じん肺」のスローガンのもと、啓発ポスター、リーフレットの作成・配布および現場パトロールの実施などの活動を行っている。 https://www.nikkenren.com/anzen/pdf/roudou_saigai/2024anzen_funjin_leafret.pdf
11 月 1 日	厚生労働省 「ストレスチェック制度等のメンタルヘルス対策に関する検討会」の中間とりまとめを公表	今後の方向性として、十分な支援体制の整備等を図った上で、ストレスチェックの実施義務対象を 50 人未満の全ての事業場に拡大することが適当とされた。 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_44880.html



高齢者の労災防止へ職場環境など整備、厚労省が法改正へ…昨年の死傷者は4万人弱と8年連続で最多を更新



急増する高齢者の労働災害を防ぐため、厚生労働省は企業に対し、高齢者の労災対策を努力義務として課す方針を固めた。人手不足を背景にシニアの働き手は増えており、職場環境を整え、転倒などの事故を防止するよう求める。来年の通常国会で労働安全衛生法の改正案の提出を目指す。

65歳以上の労働者は昨年、過去最多の914万人となり、20年前からほぼ倍増した。これに伴い、労災事故も増えている。昨年、死傷した60歳以上は3万9702人で、8年連続で過去最多を更新した。

転倒事故が4割に上っており、ぬれた床で足を滑らせたり、段差でつまずいたり、加齢による身体機能や筋力の低下が要因とみられるケースが目立った。

全労働者に占める60歳以上の割合は18・7%だったが、労災に遭った人は60歳以上が29・3%に上った。発生率は30歳代と比べ、男性で約2倍、女性は約4倍に上り、休業期間も長期化する傾向にあった。

厚労省は2020年、高齢者の労災防止に向けた指針を策定。企業に対し、高齢の労働者の体力や健康状態を把握した上で、段差の解消、スロープや涼しい休憩場所の設置などの対策を呼びかけている。

だが、厚労省の昨年の調査では、対策を講じた企業は19%にとどまった。実施しない理由は、「自社の60歳以上は健康」（48%）が最多で、「必要性を感じない」（23%）も多かった。

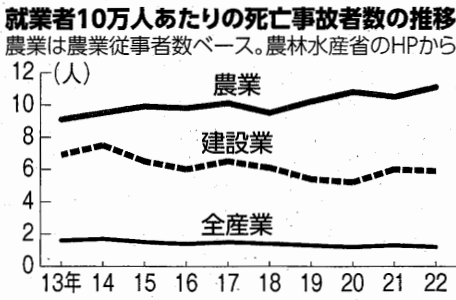
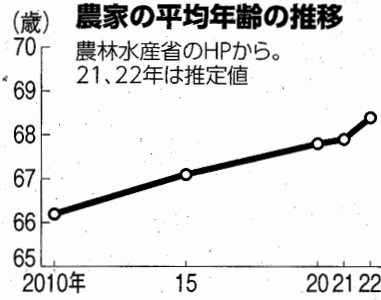
こうした状況を改善するため、厚労省は指針で示している労災対策について、労働安全衛生法に基づく企業の努力義務として、取り組みの推進を図ることにした。6日に開かれる厚労相の諮問機関・労働政策審議会の分科会で、同省が法制化を見据えた案を示し、了承が得られる見通し。

少子高齢化で人手不足は更なる深刻化が見込まれ、政府は高齢者の就労を拡大したい考え。40年に全労働者に占める割合は30%まで増える見込みで、対策は急務となっている。

（石田監事 情報提供）

農作業中事故全産業の10倍

農作業中の事故が各地で後を絶たない。農林水産省の統計によると、2022年の死亡者数は238人で、死亡事故が発生する確率は全産業平均の約10倍にも上る。同省は今年、26年までに農作業全般の死亡事故者数を22年から半減させる目標を設定し、安全対策の徹底を呼びかけている。



22年 238人死亡 農水省、26年までに半減目標

農作業事故防止のための心がけ
農林水産省のホームページから



農家の高齢化が進む中、事故は人手不足を加速させる要因にもなりかねないと専門家は指摘する。

9月5日、北海道津別町でジャガイモの選別中の69歳の男性が、収穫機と地面の間に挟まれて死亡した。北海道警によると、トラクターのエンジン止めようと、収穫機から乗り移ろうとしたところだった。同町では8月26日にも、女性が収穫機に巻き込まれて骨折する事故があった。別の作業員が女性に気付かず車を動かしたという。

J A長野中央会によると、長野県では今年、農作業車が関係する死亡事故が5件発生(8月20日時点)した。東御市では8月19日午後11時ごろ、農業の男性(86)がトラクターの下敷きになっており、その後死亡が確認された。男性は日中にひとりで畑作業に出かけ、トラクターとともに林に転落したとみられるという。

担当者は「高齢者が関係する事故がかねて多い」と話す。毎年、5月と9月にラジオを通じて事故防止を呼びかけるな

担い手高齢化 機械関連が6割超

として安全対策を呼びかけている。

背景にあるのが、農業従事者の高齢化だ。22年の農業従事者122万6千人のうち、約7割が65歳以上だ。事故による死亡者数自体は238人と下降傾向にあるが、10万人あたりの死亡者数は、13年の9・1人から22年には11・1人と増加。65歳以上が全体の86%を占めた。死亡事故の6割以上は機械がからむものだった。

田村孝浩・宇都宮大農学部教授は、農業は家族経営が多く、「労務や安全管理が不十分なケースも少なくない」と話す。農業従事者の96%は個人経営だ。機械の巻き込みや死角での事故など例年同じような事例が起きているが、「経営体同士で情報を共有する仕組みや、事故事例を教訓とする仕組みが不十分だ」と指摘する。

農業機械も進化し、速度の自動制御装置を搭載するものもある。農水省は、安全装備の基準を厳格化して、シートベルト非着用の場合や自動で速度を抑制する機能を新基準とする食付を売すこと、

ただ、現場からは機械の進化が事故につながることもあるとの声もある。北海道十勝地区の畑作農家の男性(46)は、トラクターのスイッチをこまめに切るようにしている。「機械の自動化で横着することも増えたのではないかな。そんな時に事故が起きやすい」という。トラクターが自走する。機械が自動で耕す。そんなアシスト機能が弊害になりうるという。トラクターの自動操縦運転中、運転手が他の作業を手伝うため座席から離れた間に事故が起きるケースも。繁忙期には、作業員を臨時に雇う必要に迫られる農家も多い。「もっと安全を考えていかなければ」

農業従事者だけの問題ではないと田村教授は言う。安全面が確保されずに従事者が減れば、食料流通への影響は必至だ。「食の安心に対する社会の関心は高いのに、生産者の安全はあまり気にされていない」と指摘する。(鈴木優香・中沢滋人・菅沼遼)

次号は令和7年1月中旬頃発行予定です。皆様よりの情報提供を期待しています。
また、コンサルタント事例としての経験談（成功談でも失敗談でも）を募集しています。
それ以外の内容でも大歓迎です。寄稿をお待ちしています。

- ・今回のSSHCON ニュースに対するご感想・意見等をお寄せ下さい。
- ・みなさんがお持ちの情報、写真等で会員みなさんに提供したいものがありましたら、連絡下さいますようお願い致します。